



造成前 1974年頃

埋立中 1989年頃

現在



**四半世紀を振り返り、今後を考える**

高槻成紀 先生  
理学博士  
麻布大学野生動物学研究室教授

今から7年前、私は処分場跡地の今後を考えるための委員会を代表していくつかの提案をした。その精神は、都市生活をする者として自然に迷惑をかけることは自覚した上で、その迷惑を最小限にする努力をしたというものであった。処分場跡地の使い方もその精神に基づいて考えた。そしてピオトープ作りによって野鳥などを呼び戻すということもおこなわれたが、私は一部園芸植物が植えられていた場所などを「何もしないで放置し、ススキ群落を甦らせてください」とお願いした。初めは牧草類が貧弱に生きていただけの場所が数年で見事なススキ群落になりさまざまなバッタ類を含む昆虫類が驚異的な復活をしてくれた。そしてカヤネズミやノウサギも戻ってきた。四半世紀前に「自分たちの出したゴミは自分たちで処理しよう」という先人の決意と、処分場への動植物の復活も射程にいれていた洞察を活かすためにはこれが最善の計画だと考えたのである。うれしいことに、その意図を動植物自身が雄弁に表現してくれた。私はこのささやかな成功が、日本各地のゴミ処分場や空き地の使い方のモデルとなって、日本中にススキ群落が戻って来るのを夢見ている。「秋の七草」を愛でるという美風を復活させることが戻ってきてくれた動植物への最高の返礼だと思っている。

そしてこれからも…  
～生きものたちと共生するための取り組み～

これまでの調査結果をふまえて生きものたちが暮らしやすいように整備をしています。

**オオムラサキの保護活動**

◆エノキの根元の柵

オオムラサキの幼虫は、エノキの根元にある落ち葉の裏で冬を越します。エノキの落ち葉が飛ばないように柵を作りました。

◆オオムラサキの幼虫

**トウキョウサンショウウオの保護活動**

◆整備をした産卵池

森のなかにある小さな沢で産卵するトウキョウサンショウウオの産卵場所が、土砂などで埋まらないように保全しています。

◆トウキョウサンショウウオの幼生



埋立を行っていた当時の管理センターを「谷戸沢記念館」として整備しました。この記念館は、学習室や展示室があり、環境学習会などにつかわれています。展示室には、谷戸沢処分場内の自然回復の記録や昆虫標本などが展示されています。

◆ネキトンボ

◆ルリビタキ

◆カブトムシ

谷戸沢に生息する生きものたちが安心して暮らせるように場内にピオトープを設置しました。生きものたちの様子を見学者が観察できるように観察路も整備しました。



**東京たま広域資源循環組合**

組合事務所 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内  
TEL042(385)5947 FAX042(384)8449

管理センター 東京都西多摩郡日の出町大字大久野7642  
TEL042(597)7881 FAX042(597)7886

<http://www.tama-junkankumiai.com/>

少しずつ 確実に 自然が修復されている

# 生きものたちの25年間の記憶

谷戸沢処分場の「いま」をご覧ください

生態モニタリング調査の結果

**春** ツクシ コチドリ

**夏** ヤマホトトギス キジ

**秋** イヌタデ キビタキ

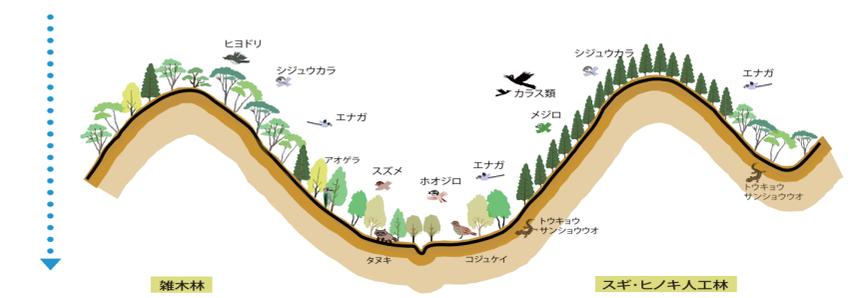
**冬** マガモ ノウサギ

日の出町の天然記念物 トウキョウサンショウウオ

国蝶 オオムラサキ

谷戸沢の移り変わりをみつけて…

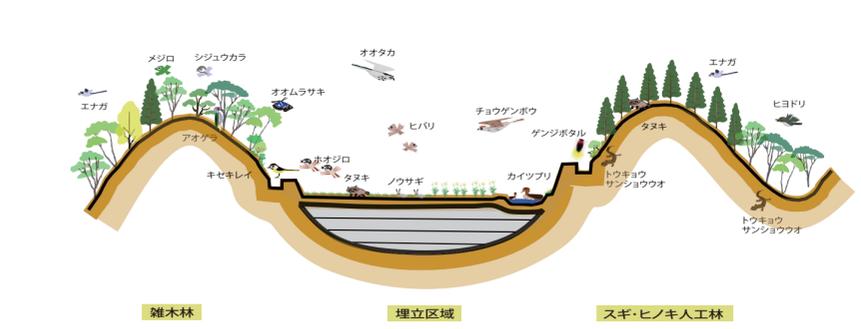
造成前 (1974年頃) 平井川の支流である谷戸沢の上流部は森林におおわれ、エナガやシジュウカラなどの森にすむ小鳥やタヌキなどが暮らしていました。川沿いではホテルたちもみられ、日の出町の天然記念物であるトウキョウサンショウウオの生息が確認されました。



埋立中 (1989年頃) 造成工事が始まり、森林の一部が失われて生きものたちの数も減りました。持ち込まれた廃棄物のためにカラスの数が増えましたが、周辺環境への影響は小さく、鳥の種類数に変化はありませんでした。トウキョウサンショウウオも変わらずすみ続けていました。



現在 埋め立てが終わり処分場に生きものたちが戻ってきました。埋立地には草原と水辺ができ、生息する仲間たちも増えました。沢にはホテルたちが、森にはオオムラサキが帰ってきました。トウキョウサンショウウオも元気に暮らしています。



# 水 辺



◆ネキトンボ



◆ゲンジボタル



◆ギンヤンマ



◆清流復活用貯水池につくられた浮島

場内に池を作りました。この池は処分場の下流域へ水を安定して供給するために利用されています。

この池が作られてから、処分場の下流域ではホタルたちが多く発生するようになりました。

池では、カイツブリの子育てや多くのトンボたちをみることができます。冬にはカモたちも観察できます。



◆コガモ



◆カイツブリの卵



◆浮島で子育て中のカイツブリ

# 草 原



◆ススキの中にあるカヤネズミの巣



◆チョウゲンボウ



◆春の草原

草原では、秋の七草のうち6種をみることができます。



◆オミナエシ



◆キキョウ



◆カワラナデシコ



◆クズ



◆ススキ



◆マルバハギ

埋立地の上部は、かつて武蔵野の各所でみられたススキ原と草原が広がっています。そこにはオミナエシやキキョウなどの「秋の七草」が咲き、カヤネズミがすんでいます。

背丈の低い草原では、トノサマバッタやイナゴなどたくさんの昆虫がみられ、ヒバリが子育てをしています。ノビタキやカワラヒワなどの野鳥も増え、それらを狙ってオオタカやチョウゲンボウなども姿をあらわすようになりました。



◆秋の草原



◆ノビタキ



◆ヒバリ



◆モズ

# 森 林



◆オオタカ



◆オオムラサキの幼虫



◆アサギマダラ



◆モリアオガエルの卵

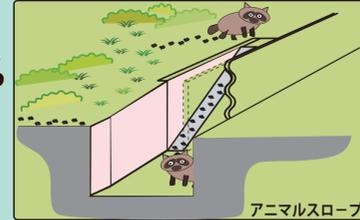


◆ヤマカガシ



◆モリアオガエル

埋立地をとりまく森には、オオタカやトウキョウサンショウウオ、モリアオガエルなどの貴重な生きものが昔と変わらず暮らし続けています。森にすむノウサギやタヌキが処分場の外周水路に落ちることもあるため、動物たちが森へ帰れるよう水路内にはアニマルスロープが設置されています。



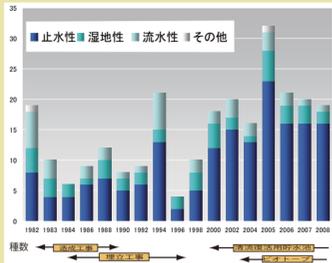
◆アニマルスロープ



◆アニマルスロープを利用する ホンドギツネ

## 谷戸沢処分場はいま、ひろびろとした草原と水辺になり、たくさんの生きものたちが暮らしています。

トンボ類確認種数の推移



場内の水辺にはたくさんの種類のトンボが訪れています。とくに水たまりにすむ「止水性」の種類(グラフの濃い青の部分)は、清流復活用貯水池を作ってから増えました。ネキトンボやコノシメトンボなどをはじめ、ほかの場所ではあまりみることができない種類もここでは数を増やしています。トンボの仲間は遠くから水面をみつけて飛来し水辺の状態をみて卵を産みます。そこでより多くのトンボに気に入ってもらえるよう、水草を増やしたり浅瀬を作ったりといった工夫を続けています。

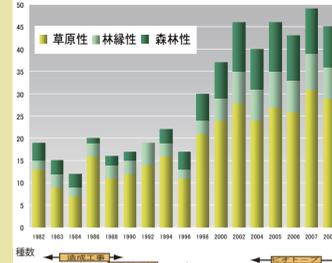


◆ハゲロントンボ



◆ギンヤンマの羽化

バッタ類確認種数の推移



埋立地が草原になるにつれて、バッタの仲間も増えました。今では50種ほどのバッタがここにすんで、季節ごとに様々な鳴き声を聞かせてくれます。バッタたちは、生えている草の種類や高さにより居場所を変えるので、草の種類が増えればバッタの種類も多くなります。バッタは、モズやトカゲなどの食料になるので、バッタが増えればより多くの生きものたちが集まってくるようになります。



◆ヒガシキリギリス



◆コバネイナゴ

場内案内図



谷戸沢にはたくさんの生きものが暮らしています。

最新の調査結果

- 植物 (121科 703種)
- 鳥類 (28科 70種)
- 昆虫類 (161科 589種)
- ほ乳類 (9科 13種)
- は虫類 (3科 6種)
- 両生類 (5科 6種)



◆ヤマトタマムシ



◆ハルレ Lindou



◇ 調査の詳細は、循環組合のホームページでご覧いただくことができます。  
<http://www.tama-junkankumiai.com/>